

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス姫路教室		
○保護者評価実施期間	2025年12月20日		～ 2026年02月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39名	(回答者数) 32名
○従業者評価実施期間	2025年12月20日		～ 2026年02月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年02月16日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	脳科学に基づく「柳沢運動プログラム」が最大の強みです。運動で脳の前頭前野を刺激し、集中力や感情コントロール力を養います。スモールステップの成功体験で自己肯定感を高め、心・体・脳をバランスよく育てます。	脳科学に基づく「柳沢運動プログラム」を軸に、遊びを通じて脳の前頭前野を刺激します。スモールステップでの成功体験、肯定的な言葉かけ、静と動の切り替えなど、自制心と自信を育む緻密な仕掛けが最大の工夫です。	運動を学習や生活技能に直結させる「多機能型支援」を強化しています。成長の可視化、運動直後の学習タイム導入、SNSや地域連携による家族支援の拡充を通じ、心身両面から自立を支える体制を整えていきます。
2	ソーシャルスキルを取り入れた活動を行っていること	個別・集団にかかわらず、いろんな場面でルールがある内容を多く取り入れ、友達とのかかわりの中にもルールが存在し、ルールを守る事で楽しい時間が過ごせる事を体験し、人のかかわりを円滑にできるような機会を多く取り入れています。	今以上に子供たちが楽しめる活動内容にしていきたい。集団活動や個別活動を通じて、子供達に活動内容を決め、計画委を立てて、計画的に活動に取り組める仕組み作りをしていきたい。
3	子供も職員も明るく元気である事	様々な活動を子供も職員も笑顔で参加し、大きな声でお友達の応援や、歌を歌ったりする事や、勝ち負けのある競技も積極的に取り入れて、競技には負ける事もある負けても大丈夫なんだという気持ちや、勝ったときに拍手をする等で、自己肯定感を育んでいます。	近隣の公園へお邪魔したり、色んな場所にお邪魔することで、体を積極的に動かしたり、場面場面での所作を学ぶことに力を入れていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	色々な場面で、研修会や保護者会等の会社としての情報発信や書面での情報発信を行っているが、認知度が低いためにうまく機能していない。	書面を発行し、見える化を加速できるように改善してはいるが、実際は上手く伝わっていないことが多い。	どのような内容なのか内容をわかりやすくすること。送迎時に折角保護者様と面談する機会があるので、書面を手渡しし簡単にでも説明する等の工夫をしていく。
2	日々の業務に流され、職員の質に習熟度に差が生じている。	職員研修への参加を行っているが理解度に差がある。	OFFJTとして本部SNS研修への参加を行っているが、それらをOJTにつなげる事が重要。
3	待機児童問題や、高学年への継続的なアプローチの確立が課題	待機児童に関しては、情報提供が定期的に出ていない事。指導員の習熟度の差、高学年児のニーズ多様化に対し、既存の運動メニューだけでは対応しきれない構造的課題も存在します。	待機になりえる方でも、見学等を受入れて情報発信をしているが、その後のアフターケアを充実させる必要がある。高学年向けの就労準備支援等や、継続的な支援体制の構築が必要なこと